



平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年7月31日

上場会社名 セガサミーホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6460 URL http://www.segasammy.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 里見 治  
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員管理部長 (氏名) 吉澤 秀男 (TEL) 03-6215-9955  
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け電話会議)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日~平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	69,980	7.1	5,415	82.4	4,686	42.9	2,544	—
24年3月期第1四半期	65,331	△28.5	2,969	△80.1	3,278	△77.5	△2,224	—

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 △935百万円(—%) 24年3月期第1四半期 2,438百万円(△63.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	10.17	10.14
24年3月期第1四半期	△8.84	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	471,925	284,164	59.4
24年3月期	497,451	296,376	58.9

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 280,554百万円 24年3月期 293,105百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	20.00	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日~平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	163,000	6.8	2,500	△83.5	2,000	△86.4	3,500	△12.1	14.22
通期	470,000	18.8	66,000	13.0	65,000	11.8	40,000	83.3	164.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当します。詳細は添付資料7ページ「2. サマリー情報 (その他) に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	25年3月期1Q	266,229,476株	24年3月期	266,229,476株
② 期末自己株式数	25年3月期1Q	19,265,415株	24年3月期	15,194,836株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	25年3月期1Q	250,293,105株	24年3月期1Q	251,723,496株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
- ・当社は、平成24年8月1日にアナリスト向けの電話会議を開催する予定です。その説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結業績予想に関する定性的情報	6
2. サマリー情報(その他)に関する事項	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	7
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	7
3. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	10
(3) 継続企業の前提に関する注記	12
(4) セグメント情報等	12
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

	前々年同期 連結累計期間	前年同期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比	
				増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
売上高	91,340	65,331	69,980	4,649	7.1
営業利益	14,951	2,969	5,415	2,446	82.4
経常利益	14,603	3,278	4,686	1,407	42.9
四半期純利益	7,036	△2,224	2,544	4,769	—
	円	円	円	円	%
一株当たり四半期純利益	27.93	△8.84	10.17	19.01	—

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、長期化が見込まれる電力供給不足への対応や、欧州を中心とした世界的な金融市場の混乱の影響などにより、先行きが不透明な状況となりました。

このような状況の中、遊技機業界におきましては、パチンコ遊技機の入替はやや低調に推移したものの、パチスロ遊技機においては、パチンコホールでの稼動回復や設置台数の増加がみられ、引き続き市場が回復傾向にあります。

アミューズメント業界におきましては、主にプライズカテゴリーに牽引される形で市場が堅調に推移しておりましたが、今後の市場活性化に向けては、多様化する顧客ニーズに応じた、斬新なゲーム機の開発、供給等が期待されています。

家庭用ゲーム業界におきましては、欧米における厳しい経済環境の影響によって、主にパッケージゲームの需要が低調に推移いたしました。一方で、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)やスマートフォン向けなどのデジタルゲーム市場における需要が拡大しており、このような市場環境の変化への対応が求められております。

このような経営環境のもと、当第1四半期連結累計期間における売上高は699億80百万円(前年同期比7.1%増)、営業利益は54億15百万円(前年同期比82.4%増)、経常利益は46億86百万円(前年同期比42.9%増)、四半期純利益は25億44百万円(前年同期は四半期純損失22億24百万円)となりました。

平成24年5月11日に公表のとおり、韓国において、観光サービス事業等を行っているParadise Groupと、韓国仁川市エリアにおける、カジノを含む複合型リゾート施設の開発事業について、当該プロジェクトの企画・開発・運営を行う合弁会社を設立することについて合意いたしました。なお、当該合弁会社の設立は完了しております。詳細につきましては、平成24年5月11日付「Paradise Group との共同事業について」をご参照下さい。

また、当社は、平成24年5月31日開催の取締役会において、自己株式の取得について決議いたしました。平成24年6月7日から平成24年9月28日までを取得期間とし、取得する株式数の上限を10,000,000株、株式の取得価額の上限を170億円としております。平成24年6月30日までの取得状況は取得株式数4,063,700株、取得価額63億2百万円となっております。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

《遊技機事業》

	前々年同期 連結累計期間	前年同期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比	
				増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	48,975	29,954	33,775	—	—
セグメント間売上高	63	16	18	—	—
売上高合計	49,039	29,971	33,794	3,822	12.8
営業利益	15,133	7,147	7,847	699	9.8
	台	台	台	台	%
パチンコ販売台数	49,240	82,394	23,764	△58,630	△71.2
パチスロ販売台数	109,621	7,633	80,906	73,273	960.0

パチンコ遊技機事業におきましては、サミーブランド『ぱちんこCRガオガオキング』シリーズや『デジテンCR北斗の拳 有情(トキ)』並びにタイヨーエレクトリックブランド『CR龍が如く 見参!』シリーズ等を販売いたしました。パチスロ遊技機事業におきましては、サミーブランド『パチスロ コードギアス 反逆のルルーシュ』や『アイドルマスターライブインスロット』並びに前期に発売したロデオブランド『パチスロ モンスターハンター』等の販売が堅調に推移した結果、パチスロ遊技機全体では、前年同期実績を上回る80千台の販売となりました。

以上の結果、売上高は337億94百万円（前年同期比12.8%増）、営業利益は78億47百万円（前年同期比9.8%増）となりました。

遊技機の主要販売機種名及び販売台数

パチンコ遊技機

機種名	ブランド	販売台数
ぱちんこCRガオガオキング シリーズ	(サミー)	9千台
デジテンCR北斗の拳 有情(トキ)	(サミー)	6千台
CR龍が如く 見参! シリーズ	(タイヨーエレクトリック)	3千台

パチスロ遊技機

機種名	ブランド	販売台数
パチスロ モンスターハンター	(ロデオ)	38千台
パチスロ コードギアス 反逆のルルーシュ	(サミー)	31千台
アイドルマスターライブインスロット	(サミー)	10千台

## 《アミューズメント機器事業》

	前々年同期 連結累計期間	前年同期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比	
				増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	9,737	7,625	8,382	—	—
セグメント間売上高	704	572	584	—	—
売上高合計	10,442	8,198	8,966	768	9.4
営業利益	1,399	158	201	42	26.8

アミューズメント機器事業におきましては、前期に発売した『StarHorse3 Season I A NEW LEGEND BEGINS.』を継続して販売したほか、カード等の消耗品の販売が堅調に推移いたしました。また、レベニューシェアタイトルの稼働による配分収益が引き続き堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は89億66百万円（前年同期比9.4%増）、営業利益は2億1百万円（前年同期比26.8%増）となりました。

## アミューズメント機器の主要販売タイトル名及び販売実績

タイトル名		販売実績
「WORLD CLUB Champion Football」シリーズ	トレーディング カードゲーム	5億円
StarHorse3 Season I A NEW LEGEND BEGINS.	メダルゲーム	5億円
「ボーダーブレイク」シリーズ	ビデオゲーム	5億円

※販売実績は、カード等の消耗品販売やレベニューシェアタイトルの稼働による配分収益等を含んでおります。

## 《アミューズメント施設事業》

	前々年同期 連結累計期間	前年同期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比	
				増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	11,104	10,957	10,012	—	—
セグメント間売上高	0	0	0	—	—
売上高合計	11,104	10,957	10,012	△944	△8.6
営業利益	177	634	428	△206	△32.6
	店舗	店舗	店舗	店舗	%
国内アミューズメント施設数	255	248	240	—	—
(参考)	%	%	%		
セガ国内既存店舗売上高前年同期比	97.2	102.5	94.6	—	—

アミューズメント施設事業におきましては、前期に引き続き既存店舗の運営力強化を行いました。主にプライズカテゴリーに牽引される形で比較的堅調に推移した前年同期からの反動により、セガ国内既存店舗の売上高は、前年同期比94.6%とやや低調に推移いたしました。

国内においては、当第1四半期に2店舗の閉店を行い、一方で新規出店を1店舗行った結果、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は240店舗となりました。

以上の結果、売上高は100億12百万円（前年同期比8.6%減）、営業利益は4億28百万円（前年同期比32.6%減）となりました。

## 《コンシューマ事業》

	前々年同期 連結累計期間	前年同期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比	
				増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	20,797	16,041	14,929	—	—
セグメント間売上高	62	166	166	—	—
売上高合計	20,859	16,207	15,095	△1,111	△6.9
営業利益	△636	△3,856	△1,559	2,297	—
	万本	万本	万本	万本	%
ゲームソフト販売本数	329	233	134	△99	△42.4

コンシューマ事業におきましては、パッケージゲーム分野において、『London 2012』などの販売を行いました。平成24年3月30日に公表した構造改革の施策の一部として、タイトル数の削減を実施していることから、パッケージ販売本数は、米国40万本、欧州70万本、日本23万本、合計134万本となり、前年同期実績を下回りました。

一方で、携帯電話・スマートフォン・PCダウンロード等のデジタルゲーム分野におきましては、スマートフォン向けタイトル『Kingdom Conquest (キングダムコンクエスト)』が、2012年6月に累計で300万ダウンロードを突破するなど、引き続き好調を維持しております。その他にも、『SAMURAI & DRAGONS』、『サカつくS』、『ミックフリック』をはじめとした複数のタイトルの投入を行っております。

また、携帯電話・PC向けパチンコ・パチスロゲームサイトにおいては、従量課金サービス等が堅調に推移したほか、スマートフォン対応版『777townSP』の取り組みを強化しております。

玩具販売事業におきましては、『アンパンマン おしゃべりいっぱい! ことばずかん』などの定番商品の販売は好調に推移いたしました。玩具販売事業全体は低調に推移いたしました。

アニメーション映像事業におきましては、番組販売などが堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は150億95百万円（前年同期比6.9%減）、営業損失は15億59百万円（前年同期は営業損失38億56百万円）となりました。

コンシューマ事業につきましては、事業の収益改善及び成長軌道への回帰を実現するために、欧米市場におけるパッケージゲーム分野を担当する組織を合理化し、安定的に収益を創出できる体制を構築することを決定しております。本件に伴い、主に欧州における拠点の閉鎖及びタイトル数の絞込み等を行っております。今後は、外部ディストリビューターを活用することにより、固定費の削減を図るとともに、確固たる収益が期待される有力なタイトルの販売に注力し、収益力の改善を図ってまいります。

また、株式会社セガは、デジタルゲーム分野の強化を目的として、平成24年7月2日に株式会社セガネットワークスを設立し、環境変化に適応した体制への転換を図っております。なお、平成24年7月4日にデジタルゲーム分野における当期主力タイトルの『ファンタシースターオンライン2』が正式にサービスを開始しており、好調に推移しております。

## ゲームソフトの主要販売タイトル名及び販売本数

タイトル名	販売地域	プラットフォーム	販売本数
London 2012	欧・米	PS3, Xbox360, PC	51万本

(2) 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におきまして、営業利益及び経常利益が平成24年5月11日に公表した平成25年3月期第2四半期連結累計期間業績予想を超過しております。しかしながら、今後の製品販売スケジュール等を見極める必要があることから、平成25年3月期第2四半期連結累計期間及び通期連結業績予想につきましては、平成24年5月11日の公表内容から変更はありません。業績予想修正の必要がある場合には、速やかに公表いたします。

なお、1株当たり当期純利益につきましては、平成24年7月までの自己株式の取得等を反映させて算出した結果、第2四半期累計では14.22円(平成24年5月11日公表値は13.94円)、通期では164.20円(平成24年5月11日公表値は159.34円)に修正しております。



## 2. サマリー情報(その他)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

## (税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

## (会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、従来、有形固定資産の減価償却方法は主として定率法を採用していましたが、大型の設備投資を計画したことを契機に、あらためてその実態を見直した結果、当第1四半期連結会計期間より主として定額法に変更しております。

具体的には、遊技機の新工場及び流通センターの建設が安定した製品の製造と供給を目的としていることや、アミューズメント施設の不算店舗の閉鎖が一巡したことでアミューズメント施設機器が概ね耐用年数内で安定して稼働すると見込まれることなどから、当グループの有形固定資産の稼働率が大きく変化しないこと、また、当グループにおいて修繕費等の設備維持費用も概ね平準化していること等を総合的に考慮して決定したものであります。

この結果、従来の方法によった場合と比較し、当第1四半期連結累計期間の売上総利益が706百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ828百万円増加しております。

なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

## (会計上の見積りの変更)

当社及び国内連結子会社の有形固定資産の耐用年数は、従来、主として法人税法に規定する方法と同一の基準によっておりましたが、大型の設備投資を計画したことを契機に、あらためてその実態を見直した結果、当第1四半期連結会計期間より耐用年数を変更しております。

具体的には、遊技機の新工場及び流通センターの建設や、アミューズメント施設の不算店舗の閉鎖が一巡したことで、今後は製造設備やアミューズメント施設機器等の有形固定資産の物理的な利用期間、並びに有形固定資産の利用により発生する収益貢献期間等がより安定すると考えられるため、経済的耐用年数を総合的に考慮して決定したものであります。

この結果、従来の方法によった場合と比較し、当第1四半期連結累計期間の売上総利益が157百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ162百万円減少しております。

なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

## (修正再表示)

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	127,721	157,117
受取手形及び売掛金	73,554	36,230
有価証券	66,509	27,708
商品及び製品	6,677	6,985
仕掛品	6,992	9,480
原材料及び貯蔵品	20,890	18,932
その他	25,892	39,762
貸倒引当金	△593	△379
<b>流動資産合計</b>	<b>327,645</b>	<b>295,837</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
土地	29,457	28,134
その他(純額)	48,716	54,429
<b>有形固定資産合計</b>	<b>78,173</b>	<b>82,564</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	10,790	9,981
その他	10,517	11,629
<b>無形固定資産合計</b>	<b>21,308</b>	<b>21,610</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	52,725	47,735
その他	18,838	25,391
貸倒引当金	△1,239	△1,213
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>70,324</b>	<b>71,913</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>169,805</b>	<b>176,087</b>
<b>資産合計</b>	<b>497,451</b>	<b>471,925</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	59,917	36,886
短期借入金	10,194	11,222
未払法人税等	5,550	2,353
引当金	8,401	4,421
資産除去債務	199	187
その他	48,136	49,976
流動負債合計	132,398	105,048
固定負債		
社債	11,943	16,943
長期借入金	25,052	34,437
退職給付引当金	14,527	14,778
役員退職慰労引当金	293	124
資産除去債務	1,943	1,919
その他	14,916	14,508
固定負債合計	68,676	82,712
負債合計	201,075	187,760
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	29,953	29,953
資本剰余金	119,397	119,397
利益剰余金	175,173	172,676
自己株式	△26,067	△32,381
株主資本合計	298,456	289,645
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,872	15,929
繰延ヘッジ損益	—	△0
土地再評価差額金	△4,541	△4,541
為替換算調整勘定	△19,681	△20,478
その他の包括利益累計額合計	△5,350	△9,090
新株予約権	991	1,133
少数株主持分	2,279	2,477
純資産合計	296,376	284,164
負債純資産合計	497,451	471,925

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	65,331	69,980
売上原価	39,780	41,410
売上総利益	25,551	28,570
販売費及び一般管理費	22,582	23,154
営業利益	2,969	5,415
営業外収益		
受取利息	84	125
受取配当金	262	401
持分法による投資利益	—	62
デリバティブ評価益	—	80
為替差益	15	—
投資事業組合運用益	147	0
その他	162	166
営業外収益合計	671	837
営業外費用		
支払利息	131	200
持分法による投資損失	6	—
デリバティブ評価損	7	—
社債発行費	84	87
為替差損	—	821
その他	133	456
営業外費用合計	362	1,566
経常利益	3,278	4,686
特別利益		
固定資産売却益	0	290
関係会社株式売却益	9	—
その他	0	16
特別利益合計	10	306
特別損失		
固定資産売却損	0	0
減損損失	66	—
投資有価証券評価損	21	9
災害による損失	41	—
特許実施許諾解決金	3,500	—
その他	35	0
特別損失合計	3,664	9
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△375	4,983
法人税、住民税及び事業税	1,488	2,205
法人税等合計	1,488	2,205
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,863	2,778
少数株主利益	360	233
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,224	2,544

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主利益	360	233
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,863	2,778
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,846	△2,942
繰延ヘッジ損益	△2	△0
為替換算調整勘定	△538	△770
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	△0
その他の包括利益合計	4,302	△3,714
四半期包括利益	2,438	△935
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,077	△1,195
少数株主に係る四半期包括利益	360	259

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) セグメント情報等

前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	遊技機事業	アミューズメント 機器事業	アミューズメント 施設事業	コンシューマ 事業	計	その他 (注)	合計
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	29,954	7,625	10,957	16,041	64,579	752	65,331
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	16	572	0	166	754	224	978
計	29,971	8,198	10,957	16,207	65,333	976	66,310
セグメント利益又は損失(△)	7,147	158	634	△3,856	4,084	74	4,159

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、情報提供サービス業などを含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,084
「その他」の区分の利益	74
セグメント間取引消去	9
全社費用(注)	△1,199
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	2,969

(注) 全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	遊技機事業	アミューズメント 機器事業	アミューズメント 施設事業	コンシューマ 事業	計	その他 (注)	合計
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	33,775	8,382	10,012	14,929	67,099	2,881	69,980
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	18	584	0	166	769	210	980
計	33,794	8,966	10,012	15,095	67,869	3,091	70,960
セグメント利益又は損失(△)	7,847	201	428	△1,559	6,917	△152	6,764

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、複合型リゾート施設事業、情報提供サービス業などを含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	6,917
「その他」の区分の損失	△152
セグメント間取引消去	△68
全社費用(注)	△1,280
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	5,415

(注) 全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

「会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更」に記載のとおり、当社及び国内連結子会社は、従来、有形固定資産の減価償却方法は主として定率法を採用しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より主として定額法に変更しております。

この結果、従来の方法によった場合と比較し、当第1四半期連結累計期間の「遊技機」のセグメント利益が167百万円増加し、「アミューズメント機器」のセグメント利益が42百万円増加し、「アミューズメント施設」のセグメント利益が550百万円増加し、「コンシューマ」のセグメント損失が43百万円減少し、「その他」のセグメント利益が10百万円増加しております。

また、「会計上の見積りの変更」に記載のとおり、当社及び国内連結子会社の有形固定資産の耐用年数は、従来、主として法人税法に規定する方法と同一の基準によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より耐用年数を変更しております。

この結果、従来の方法によった場合と比較し、当第1四半期連結累計期間の「遊技機」のセグメント利益が145百万円減少し、「アミューズメント機器」のセグメント利益が2百万円増加し、「アミューズメント施設」のセグメント利益が16百万円減少し、「コンシューマ」のセグメント損失が2百万円増加しております。

## (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	29,953	119,397	175,173	△26,067	298,456
当第1四半期連結累計期間の変動額					
剰余金の配当			△5,020		△5,020
四半期純利益			2,544		2,544
自己株式の取得 (注)				△6,314	△6,314
自己株式の処分		△0		1	1
連結範囲の変動			△21		△21
当第1四半期連結累計期間の変動額合計	—	△0	△2,497	△6,313	△8,810
当第1四半期連結会計期間末残高	29,953	119,397	172,676	△32,381	289,645

(注) 主な内容は、平成24年5月31日開催の取締役会決議による自己株式6,302百万円(4,063,700株)の取得であります。

なお、本決議の概要は以下のとおりであります。

- |                |                         |
|----------------|-------------------------|
| (1) 取得する株式の種類  | 普通株式                    |
| (2) 取得する株式の総数  | 10,000,000株(上限とする)      |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 17,000百万円(上限とする)        |
| (4) 取得する期間     | 平成24年6月7日から平成24年9月28日まで |